

歯周病予防 ～若い世代からのアプローチ～

歯周病に関する目標項目

歯肉炎は、適切な対処で元の健康な状態に戻せるため、歯周炎に進行する前の歯肉炎の段階で、対策することが大切。

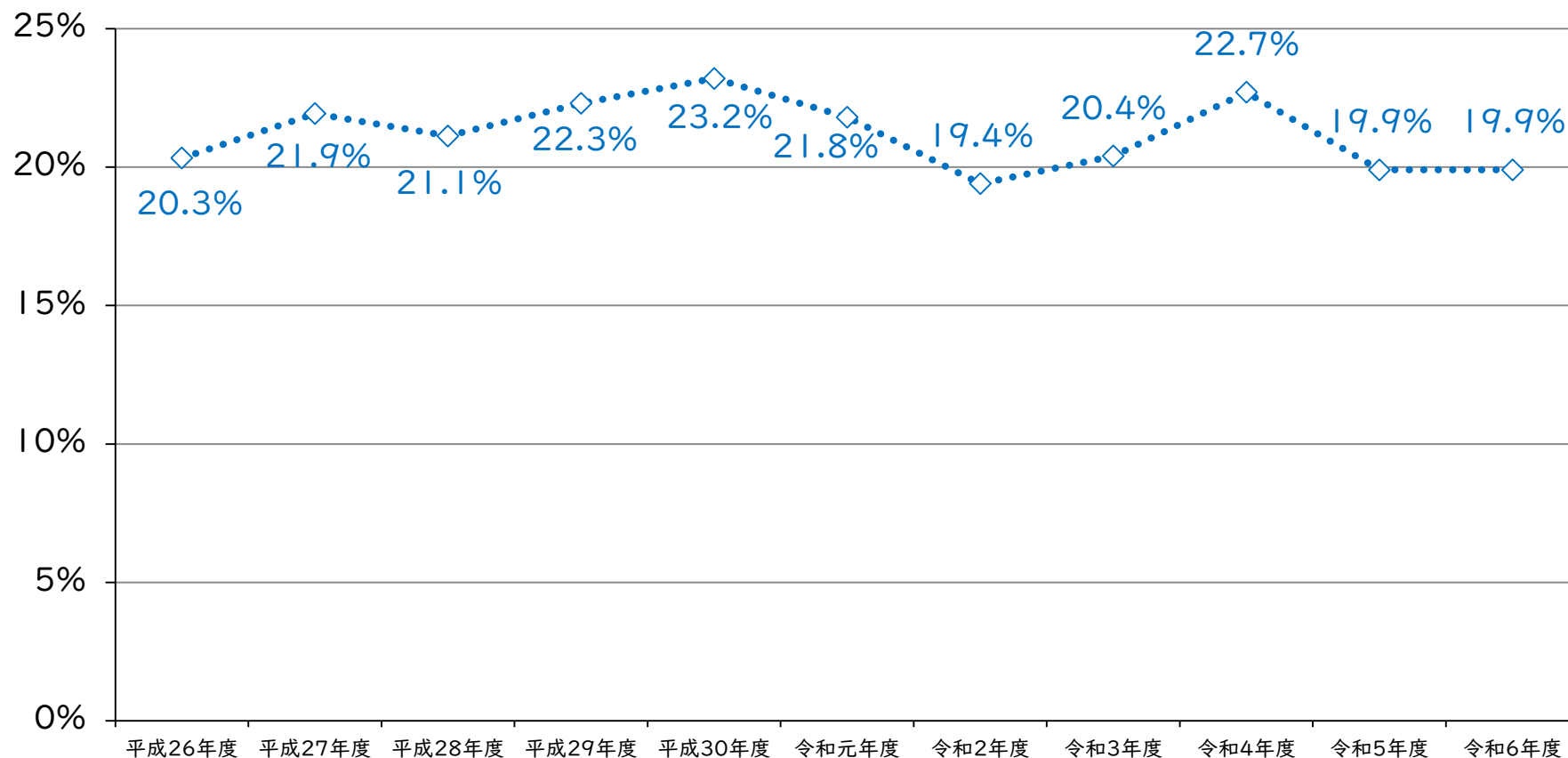
<学齢期>

岡山市歯科保健基本計画(第2次)

項目	対象者	直近値	目標値
歯ぐきに炎症所見を有する生徒の割合の減少	中学生	20.4%	10%
歯科専門職(学校歯科医等)による歯科保健教育を行う学校の割合の増加	中学生	25.5%	50%
定期的に歯科受診している生徒の割合の増加	12歳児 (中学校1年生)	65.0%	95%
歯磨き時に出血を認める生徒の割合の減少	12歳児 (中学校1年生)	37.6%	10%

中学生における歯ぐきに炎症所見を有する割合の推移

中学生の歯周病の割合は、減少していない。

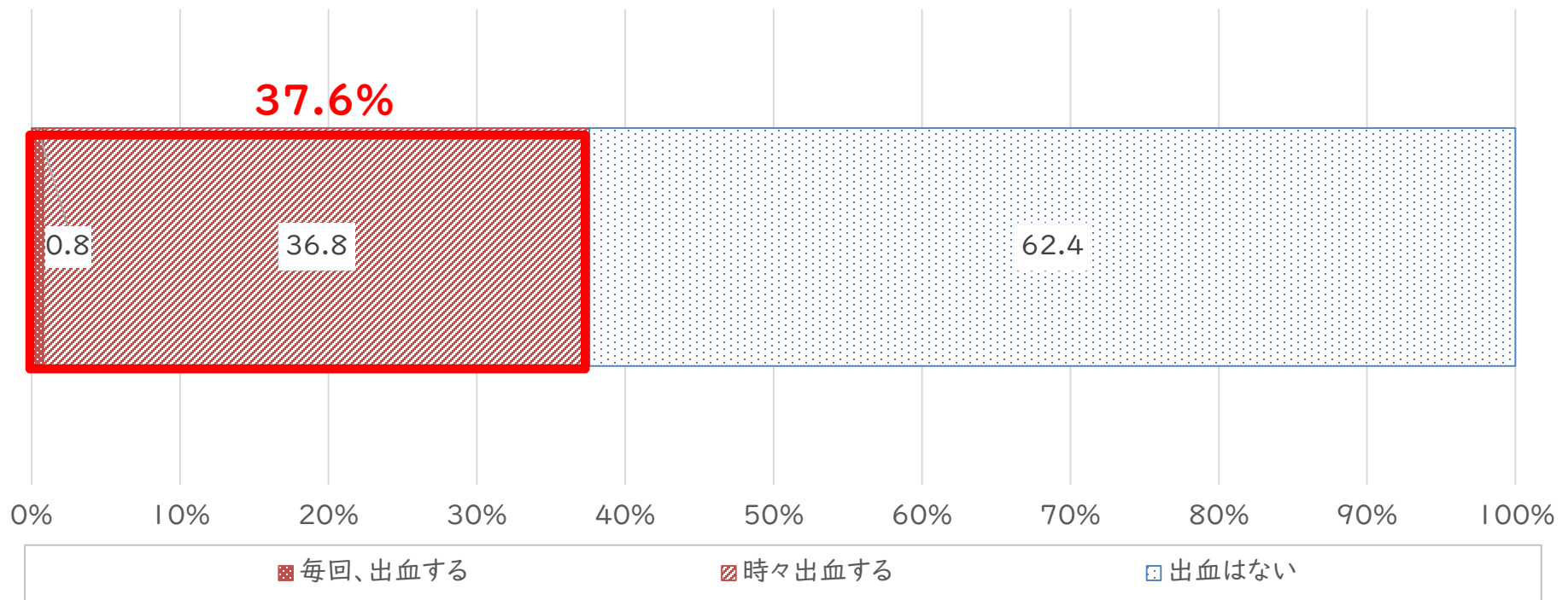


受検者数 (人)	17,936	17,824	17,569	17,258	16,869	16,678	15,686	16,445	16,275	16,217	16,197
-------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

歯磨き時に出血を認める生徒の割合（中学校1年生）

中学校1年生の約4割に、歯肉炎の自覚症状である、歯磨き時の出血が認められる。

歯磨きしたときに出血することがありますか
(n=1,872)



歯周病予防

中学校2年生にパンフレットを配布し、セルフケアとプロフェッショナルケアの重要性について啓発。

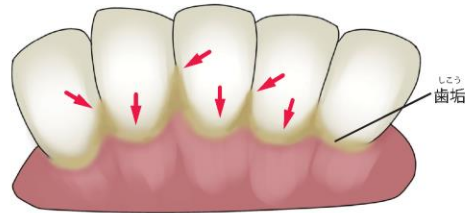
セルフケアのポイントを学ぼう



ここからは、**歯みがき（セルフケア）**のポイントを伝えるね。

歯垢が残りやすいところを確認しよう

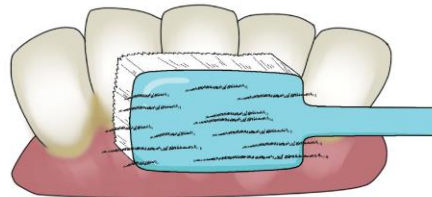
ポイント
1



歯ブラシで歯垢を取り除こう

歯ブラシの毛先を**歯と歯ぐきの境目**にあてて、**小さく動かします。**

ポイント
2



みがくポイントを意識すると、よく歯垢が取れるよ。血が出て、怖がらずにみがいていると、出血も治まってくるから安心してみがいてね。

プロフェッショナルケアについて知ろう

みがいたところを舌で触るとツルツルしてきたよ！でも、まだ何かが歯の根元に付いているな…



それは、**歯石**というよ。歯みがきでは落とせないから、**歯医者**で取ってもらおう。**3か月に1回程度、歯医者に行くこと（プロフェッショナルケア）**で…

メリット
1

「**歯石**」を取ってもらえる

歯垢が硬くなってできた歯石も、プロのケアですっきり！

メリット
2

正しいセルフケアの方法を教えてもらえる

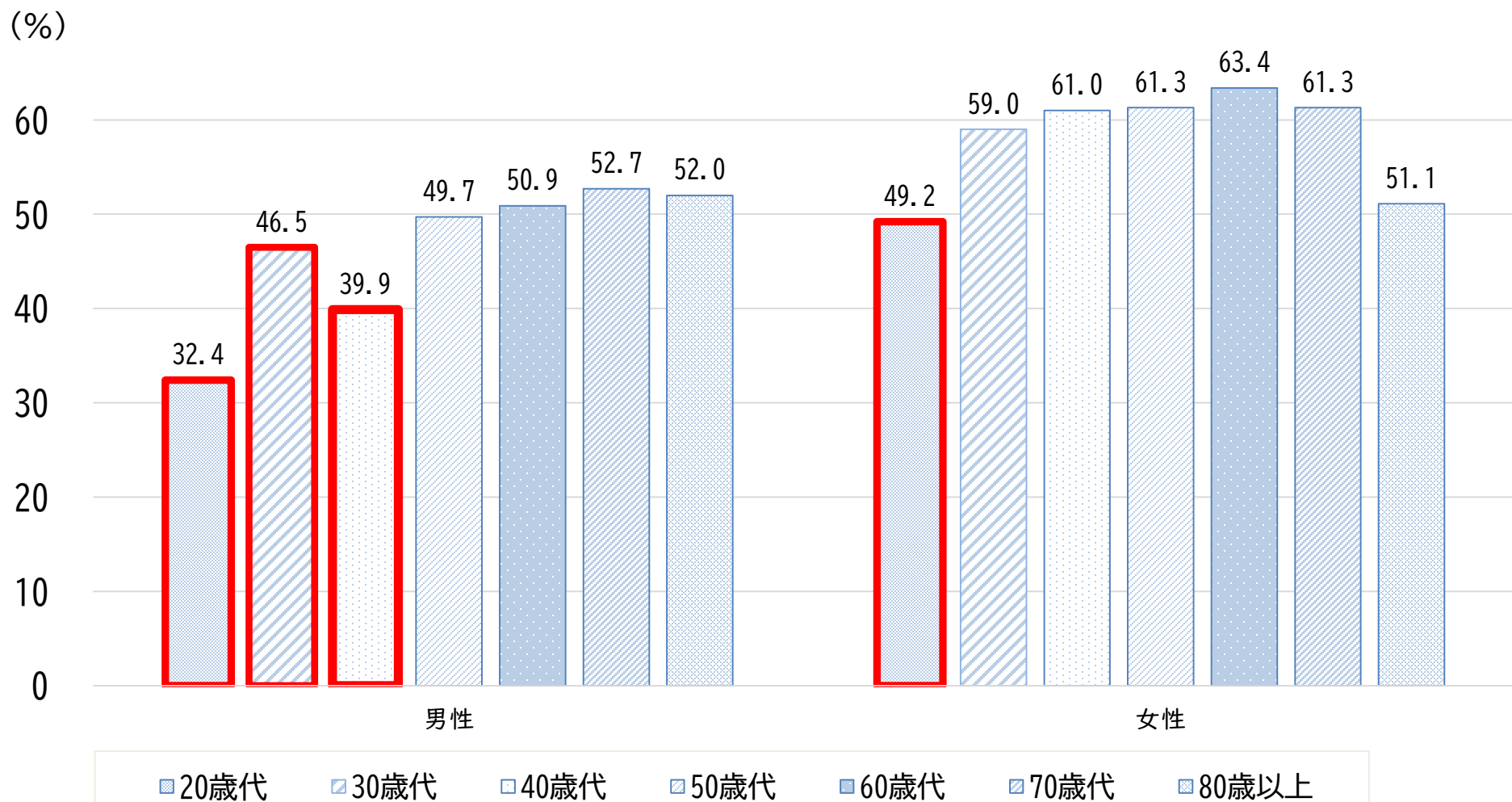
メリット
3

むし歯や歯肉炎の**早期発見・早期治療**

早く発見することで、むし歯や歯肉炎の進行を予防できる。

年1回以上、歯科検診を受けている人の割合（年代別）

20～40歳代の特に男性で、受診している人の割合が低い。



歯科検（健）診の受診者数

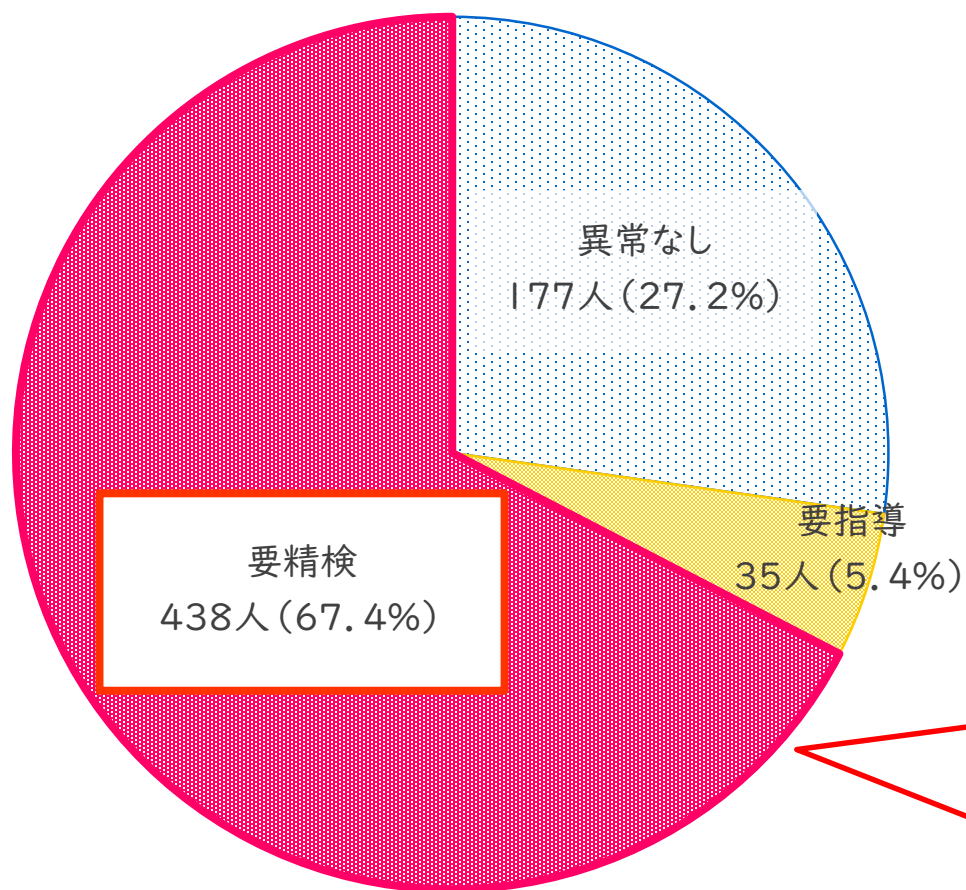
成人を対象とした歯科検（健）診の受診者数は少ない。

	歯たち(20歳)の チェック&クリーニング		歯周病検診							
	20歳		30歳		40歳		50歳			
令和7年度	650	(9.01)	15	(0.20)	14	(0.16)	22	(0.20)		
令和6年度			5	(0.07)	15	(0.17)	23	(0.20)		
令和5年度			4	(0.05)	17	(0.19)	15	(0.13)		
令和4年度			7	(0.09)	12	(0.14)	22	(0.20)		

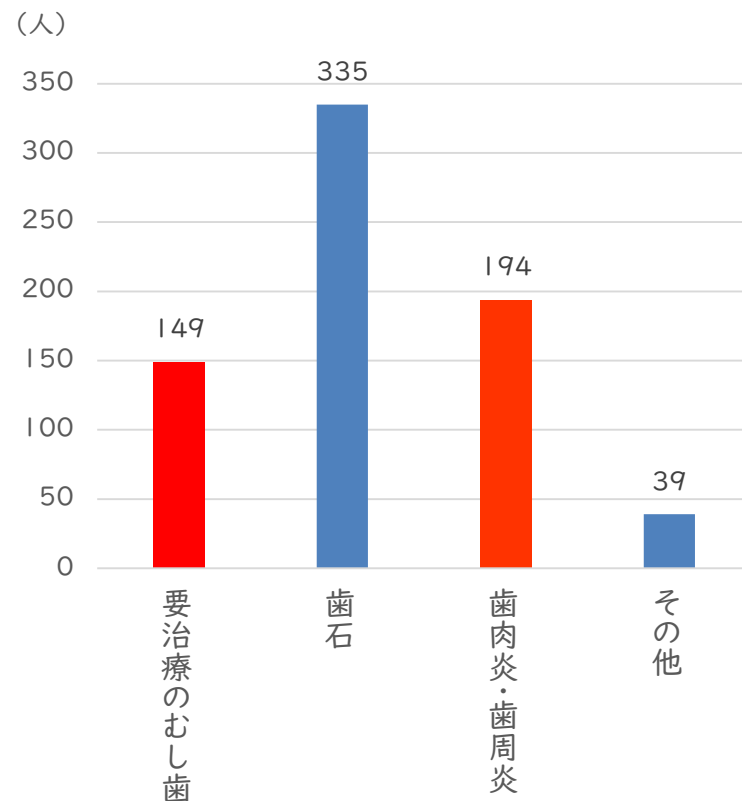
人数(%:岡山市統計月報(6月号)から年齢別基本台帳人口(5月末現在)を分母として算出)

歯たち(20歳)のチェック&クリーニング健診結果

20歳の時点で、要精密検査の割合が、約7割を占める。
歯肉炎・歯周炎になっている人が、受診者の約3割存在する。



要精密検 (n=438) の内訳 (重複あり)



協議事項

【課題】

- 中学生から既に歯肉の炎症が診られ、20歳の健診では要精密検査が約7割を占めている。
- 歯科検診事業は実施しているが、利用者は少なく、20～40歳代の働き盛り世代では、年1回以上、歯科受診している者の割合も低い。
- 高校卒業以降から働き盛り世代への歯科保健情報が十分に行き届いていないことが考えられる。



【協議事項】

働き盛り世代からの歯周病対策として、特に20～40歳代に向けて、歯科保健に関する正しい知識の普及や、健診受診率向上のために、どのような取組が必要か、それぞれの立場からご意見をいただきたい。